

## 第2日目 (6月3日): 福島県

来日2日目、一行は福島県内の数カ所を視察し、また、日赤福島県支部と韓赤釜山支部がそれぞれプレゼンテーションを行いました。

### コミュタン福島訪問

最初の訪問地に選ばれたのは、福島県環境創造センター内にある「コミュタン福島」でした。この施設は、福島原発事故に関する情報の保全と展示を目的に設立され、内部は5つのセクションに分かれてそれぞれのテーマに基づき、2011年3月11日大震災後の被災地復興プロセス、環境回復の取り組み、放射線に関する基本的な情報、代替エネルギー、原子力に依存しない生活など、さまざまな情報を展示しています。

訪問団員たちはこうした展示物を見て、地域の人々が震災で負った痛手をくぐり抜け、元の生活を取り戻すためにいかに努力を傾けているかを理解することができました。



福島県三春町のコミュタン福島

### 福島県支部との意見交換

コミュタン福島の見学を終えた後で、東日本大震災の救護活動における救護班の体験を伝えるため、日赤福島県支部スタッフがプレゼンテーションを行いました。

福島県支部の総務課長兼組織推進課長である岸波庄一氏が説明を行い、救護要員の安全を確保するために救護チームが経験した苦難や試行錯誤したことを報告しました。救護班を派遣した際、放射線下の活動に必要な放射線防護服や線量計の用意がなかったことから、被ばくを回避するために救護要員たちを被災地から撤退させざるを得なかったからです。



日赤福島県支部職員の説明



救護要員へのスクリーニング



日赤福島県支部の健康増進事業

次に福島県支部統括参事、高野浩二氏から、福島県支部が被災者のために行っている復興支援活動が紹介されました。それらには健康増進事業、生活再建事業、避難している子供たちへの教育支援、避難地域住民交流会などがあります。

続いて、釜山市役所が関連団体と連携して年に1回実施している総合防災訓練について、韓赤釜山支部が説明を行いました。

この会議で発表されたプレゼンテーション資料は、以下のリンクからダウンロードできます。

岸波課長の発表：[東日本大震災における原子力災害対応](#)

高野参事の発表：[東日本大震災における日本赤十字社福島県支部の復興支援事業](#)

Jung Hwa Yong氏の発表：[釜山の放射線・原子力災害対応](#) (英語版のみ)

## 福島県被災地視察

見学を終えた一行は、福島第一原子力発電所に隣接する帰還困難区域に向かいました。日赤福島県支部職員の説明を受けながら、住民の安全確保のため今も立ち入りや滞在が禁止されている地域を視察しました。荒れ果てた家屋や放置された車の姿が被害の深刻さを物語っていました。



東日本大震災による損壊(福島県)



立ち入り禁止区域(福島県)

市町村によっては、避難指示が解除されたにもかかわらず、総人口の1割にも満たない住民しか帰還していないそうです。車を走らせていると、除染作業を実施している光景を目にしました。放射性物質を取り除く取り組みは、線量レベルが安全基準を満たすまで続けなければなりません。

視察の最中にも質疑応答が行われ、関心は原子力損害賠償制度及び汚染土壌の廃棄に集中しました。



制限区域(福島県)



除染で生じた廃棄物(福島県)